

かいよう病抵抗性のウメ育種素材の開発

和歌山県果樹試験場うめ研究所

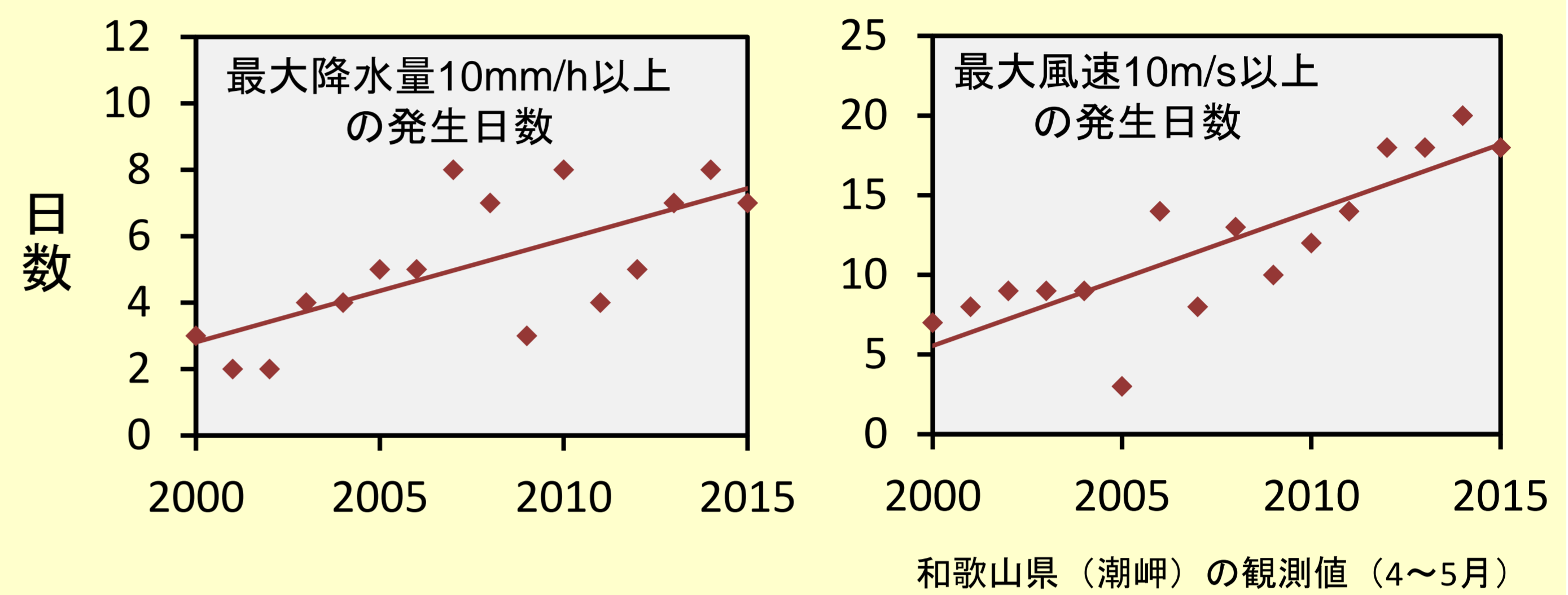
ウメのかいよう病は強風雨によって果実表面に生じた傷から細菌が侵入して発生する病害です。気候変動に伴い大雨や強風の発生が増えることが予想されるため、将来的に被害が拡大する恐れがあります。そこで和歌山県では、かいよう病に抵抗性をもつウメ育種素材の開発を進めています。

【かいよう病とは】

強風雨による傷から感染する細菌病であり、右の写真のような病斑を生じて果実品質を低下させます。和歌山県で生産量の多い「南高」、「古城」などは、かいよう病に弱い品種です。



[参考]



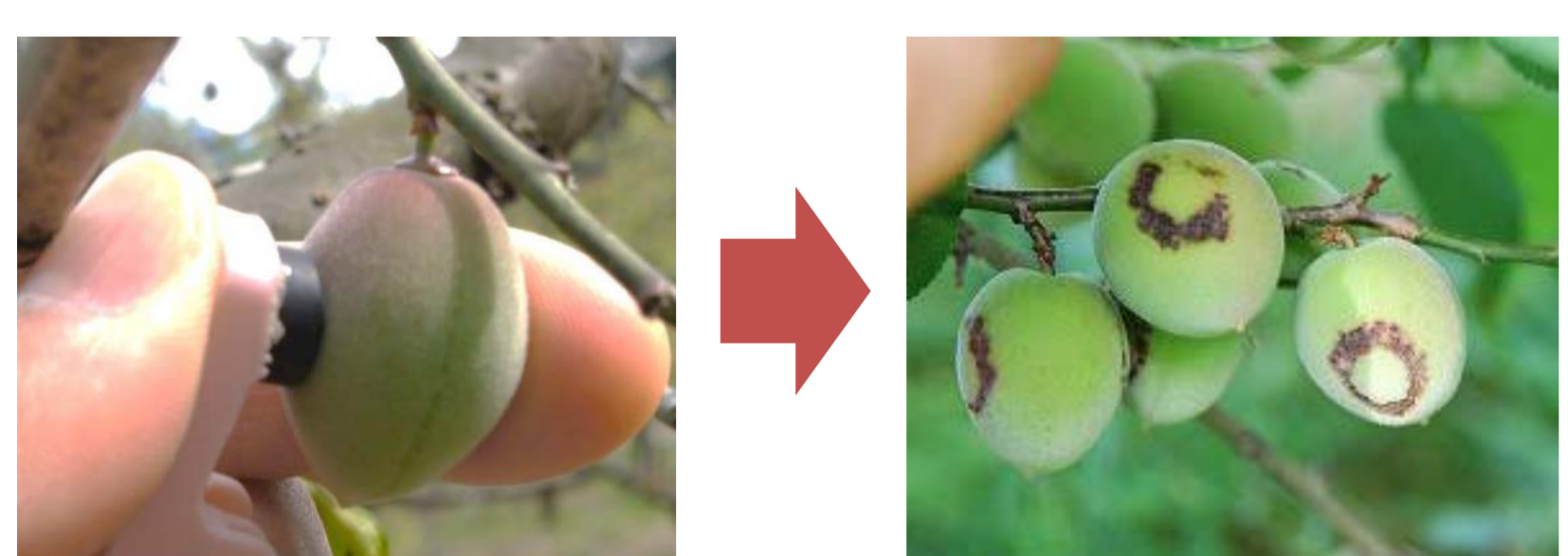
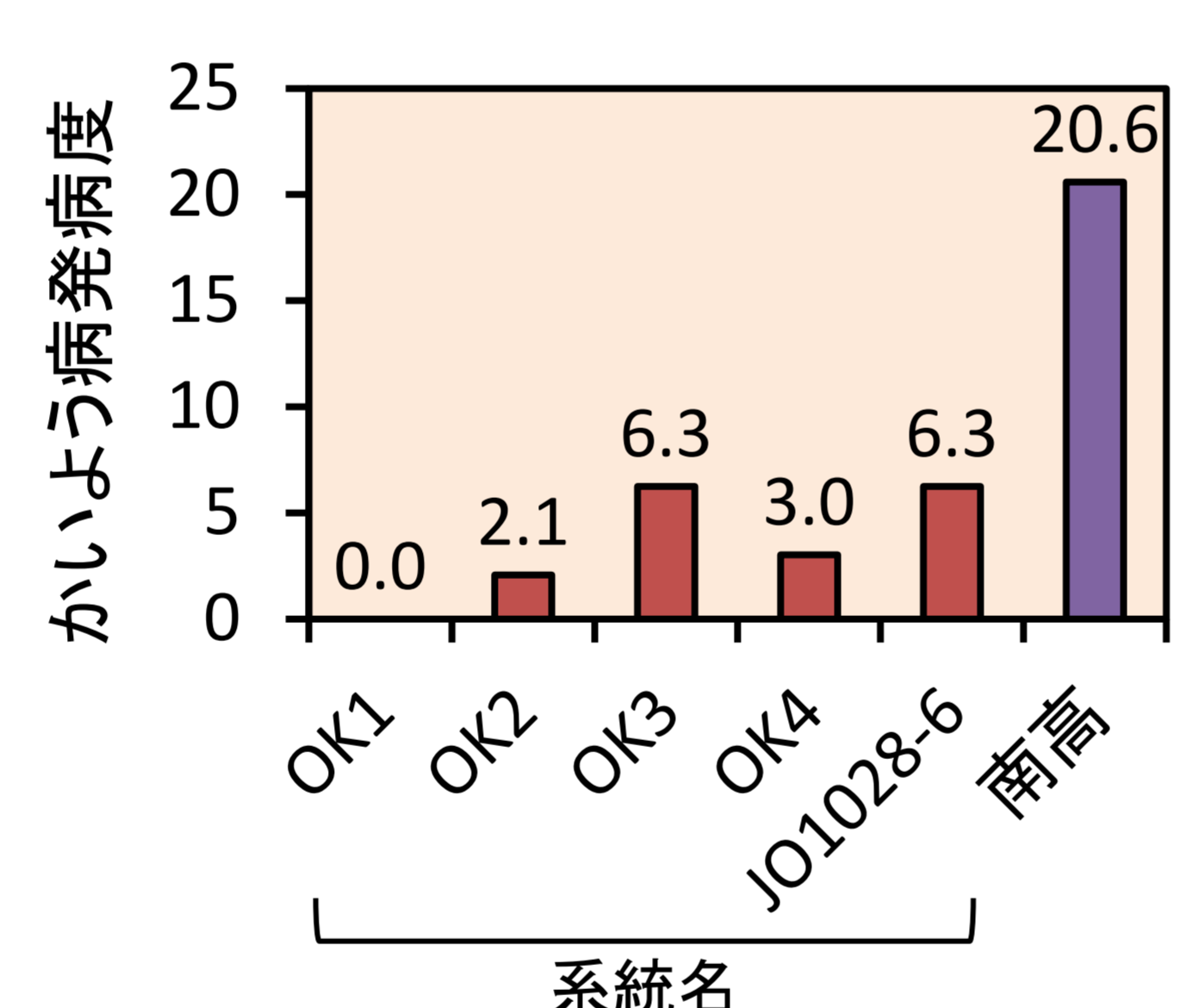
かいよう病に抵抗性をもつ品種育成が必要

強雨・強風の発生は近年増加傾向であり、今後も増加が予想されています。

1 かいよう病抵抗性系統の選抜

うめ研究所で保有する交雑系統34系統から、かいよう病に抵抗性をもつものを**5系統**選抜しました。

[抵抗性評価]
果実にかいよう病菌を接種し、その発病程度を数値化しました(発病度)。



<選抜した系統の例>

 <p>OK1 ・「織姫」×「光陽」 ・果皮に紅色がつく ・果実サイズは小さい</p>	 <p>JO1028-6 ・「地蔵」×「織姫」 ・果実サイズ中程度 ・ヤニ果少ない</p>
---	---

さらに果実品質・加工性を調査して有望系統を選抜

2 新たな抵抗性個体の獲得

- うめ研究所保有の106品種・26系統の果実にかいよう病菌を接種し、強い抵抗性をもつものを選定しました。
- 選定した品種・系統を用いて交配を行い、現在までに**1220個体**の交雑個体を獲得しました。
- 獲得した個体にさらに接種試験を行い、抵抗性個体を選抜中です(現在**46個体**を選抜済み)。



さらに樹体特性などを調査して有望系統を選抜



- 普及・社会実装への道筋
- 選抜した素材を用いて交配を進め、かいよう病抵抗性品種の育成・普及を図ります。
- 抵抗性品種の普及により、気候変動に耐えうる高品質果実生産および減農薬・低コスト栽培を実現できます。